

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ばんびーにもじ（単位3：あぶれんどよしだ）			
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 7日		～	令和7年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数)	26名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 7日		～	令和7年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な専門性をもつ職員が日々子どもたちの支援に関わっています	・多様な専門的な視点による支援を実施することができます ・指導員は「保育士」「児童指導員」「小教諭」等、専門職は「理学療法士」「作業療法士」を配置しています ・開所日は、必ず上記職員が、子どもたちの支援に関わることができるように取り組んでいます	・職員が継続的に子どもたちの支援に関わることができるように取り組んでいます ・子どもたちの特性への理解を深め、児童員・専門職員との連携を高めることで、より支援の質を高めることができるように取り組んでいます
2	来所時には、「個別療育」と「集団療育」両方についての支援を行っています	・「個別療育」は、各利用児の特性に合わせた内容を1対1の支援を設定して取り組み、「集団療育」は、集団行動のルールや社会性を学ぶことができるような活動の提供や友だちとの協調性など養う支援、またADLやIADLについての支援なども含み取り組んでいます	個々のニーズに合わせた「個別療育の実施」や、「集団療育」では個別活動や集団活動を組み合わせで取り組んでいます
3	子どもたちが安心感を持って、楽しみを感じながら通所できるように、環境づくりや関わりを行っています	担当制ではなく、職員全員が利用児全員の特性を理解し、全ての子どもたちの支援に関わることができるように取り組んでいます	・活動内容や部分的なところは、子どもたちが「自己選択・自己決定」できる場面を提供しています ・これからも子どもたちが「安心・安全」に楽しい場を提供できるように取り組んでいます

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常災害を想定した定期的避難訓練や「災害時の対応」に関する情報発信や周知について	・マニュアルを作成し、定期的に「避難訓練」の実施に取り組んでいます。しかし、その内容を保護者の皆様にはしっかりと伝わっていない現状があります ・定期的に訓練を実施しているが、参加できる利用児に限られている	・災害時や緊急時の対応について、職員に周知するとともに、保護者皆様へ周知・説明を行っていきます ・長期期間中は、定期日程ではなく、幅広く利用児に体験・経験し学習できる日程や場面などを取り組んでいます
2	「保護者同士の連携の場や地域との交流の機会」について	学校や自宅への送迎往復のみである為、保護者同士が情報共有できる連携の場、学校や地域との情報共有できる交流の機会ができていない現状があります	保護者様ニーズを把握した上で、日程や内容を検討、保護者交流の場など開催を検討し、保護者同士が交流ができる機会を作っていきます
3	朝の部署内での「ミーティング」内容について	利用児の特性を踏まえた上で、支援内容の振り返りや取り組み方法などの確認を行う時間をきちんと設けることができていない現状があります	・事前に職員配置数、職員の動きや活動内容について共有できるように周知・記録引き継ぎなどを行い、当日漏れがないように取り組んでいます ・お休みなどで共有場面に参加できていない場合は、職員自ら、連絡ノートや参加していた職員に確認することを心がけていきます